

省庁交渉 下奥議員、県民の声を胸に

県議団と県議候補は10月17日、衆議院議員会館で政府交渉を実施しました。

しもおく議員は、県民の厳しい状況と切実な思いを熱く訴えました。(詳細は19日付赤旗)



柳生川の改修を急いで

しもおく議員は、「豊橋市のだ真ん中を流れている柳生川の防災対策が遅れている。愛知県管理の川だが、国は防災予算を拡充し県にきちんと配分してほしい」と強く要望しました。

また、台風24号の停電に関して、「市民になかなか停電情報が伝わらず、大きな不安が広がった。福祉施設が自家発電なしで困っていた」と善処を求めまし

台風24号の農業災害に支援を

しもおく議員は、「ビニールハウスがつぶれ、塩害でキャベツや柿などが全滅状態。再建には数百万円の資金がいる。」と支援を求めました。「被害状況を見極めたい」との農水省の回答に対し、「被災農家は死活問題。いつまでも待てない。21号台風のように直接支援を。災害に即応できる制度の確立」を求めました。

若者の就農支援の改善を

しもおく議員は、「農業は豊橋市の基幹産業です。新規就農者が安定して働けるように制度改善が必要です」と求めました。

「特に、親元就農者(親を受継ぐ若者)が利用しにくい。5年間の就農条件を満たさないと多額の返却が生じる。一定の収入があっても途中で打切らないでなど、農家の要望を聞いている」と改善を指摘しました。

名古屋空港を軍事化するな

名古屋空港がアジア太平洋地域のF35戦闘機の広域整備拠点に計画されていることに関して、しもおく議員は、「県議会でも度々取り上げてきた。空港管理者である愛知県は『安全性を確認して飛行してほしい』と答弁している。確認できないなら飛行を認めるな。名古屋空港の軍事拠点化は誰も望んでいない」と強く批判しました。

東三河に性暴力被害者支援センターを 内閣府「希望に沿うよう努力する」

しもおく議員は、性暴力被害者の声、名古屋の支援センター「なごみ」の現状紹介、「どこにも助けを求められない被害者には身近にセンターが必須。三河地域にはなく、即応対応ができない」と設置を求めました。

総務省の担当者は、「愛知県の動きは聞いているし、努力する。東三河などブロックごとのセンター設置が望ましい」と答えました。

設楽ダムや第2滑走路は不要

しもおく議員は、「愛知県は、需要もないのに巨額の税金を投じて設楽ダムや中部空港の第2滑走路建設を進めている。老朽化している道路・橋などのインフラ改修の方向に施策を変えるべき」と政府の認識を尋ねました。

国交省の担当者は、「愛知県の要望は聞いているが、第2滑走路の計画はない。今の空港の利用状況は、「早急に必要」とはなっていない」と答えました。

人の不幸を土台にするカジノは不要

しもおく議員は、「愛知県は、法に違反で悪害のカジノを誘致しようとしている。常滑市の競艇では、不幸な出来事が後を絶たない。ギャンブル依存症対策は、カジノを作らないことだ」と政府の認識を尋ねました。

内閣府の担当者は、「誘致するかは県の判断。常滑の場合、愛知県議会と常滑市長の同意が必要」と手続きの説明に終始しました。

